

基地対策特別委員会

令和3年6月8日
全員協議会終了後開議
301会議室

○報告事項

1. F-35Aの航空自衛隊小松基地への配備について

○その他

F-35A の航空自衛隊小松基地への配備について

1 経緯

令和 3 年 6 月 3 日に近畿中部防衛局長が加賀市を訪問し、「小松基地に令和 7 年度から F-35A 戦闘機を段階的に配備する方針であり、今年度から受入施設の整備に関する調査・設計業務を実施するとともに、工事に係る経費を来年度の国の概算要求に盛り込む」旨の説明があった。

2 F-35A 配備の必要性

我が国の周辺国は、いわゆる第 5 世代戦闘機とされる機種や最新型の第 4 世代機とされる機種の配備を進めるなど、航空戦力の近代化の進展が著しく、また、我が国周辺空域における活動を急速に拡大している。

こうした状況において、あらゆる事態に切れ目なく対処し、有事における航空優勢を維持・獲得するには、高い能力を有する F-35 戦闘機を速やかに整備していくことが重要であり、ネットワーク性能やステルス性能など高い能力を有する F-35A を着実に導入・配備することにより、我が国の防衛に万全を期する。

3 小松基地に配備する理由

F-35A については、既に三沢基地に 2 個飛行隊が配備されているところ、3 個目となる飛行隊については、戦闘機部隊を配備している航空自衛隊の基地を中心に検討を行い、広大な訓練空域の活用や飛行教導群との効果的な教育訓練が実施可能であることなどから、小松基地が最適であると判断した。

4 小松基地への配備計画

小松基地においては、F-35A 戦闘機 1 個飛行隊を既存の F-15 戦闘機 1 個飛行隊と置き換える計画であり、1 個飛行隊分約 20 機の F-35A を令和 7 年度から段階

的に配備する予定である。なお、現有のF-15（約20機）との置き換えであることから、小松基地における飛行隊の数及び戦闘機の配備総数が増加するものではない。

令和7年度は4機を配備する予定であるが、その後の各年度の配備ペースは、F-35Aの取得経費に係る今後の予算計上の状況によるため、現時点では未定である。

5 F-35Aの安全性・騒音

（1）安全性

F-35は、A、B及びC型を合わせて、既に世界9カ国で約640機以上が運用されている。また、航空自衛隊は、三沢基地に約20機を配備しており、機体の安全性を十分に確認した上で運用している。

米国では、F-35に関する課題を分類して管理し、改善のための取組を継続して実施しており、とりわけ、飛行の安全や任務の遂行に重大な影響を与えうる事項として区分された課題に関しては、我が国が導入するF-35A、Bに関連した課題のリストを米国から得た上で、飛行の安全に影響する問題はないことを確認している。

（2）騒音

F-35Aの騒音については、地上においてエンジンを作動させた場合の騒音値は、F-15C（※）と同程度、また、飛行時の騒音値は、F-15E（※）より高いとの米国政府の資料がある。

小松基地周辺地域における騒音状況の変化について、既存のデータのみをもって予断するのではなく、配備後の運用状況を踏まえ、しっかりと調査・確認をしていく。

※ 小松基地に配備されているF-15J/DJと同等のエンジンを装備